

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成28年8月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791700079		
法人名	株式会社 フレンド		
事業所名	グループホームフレンド筆ヶ崎		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市天王寺区筆ヶ崎町3番20号		
自己評価作成日	平成28年5月25日	評価結果市町村受理日	平成28年9月6日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を利用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各線、鶴橋駅より徒歩3分と好立地な場所にあり、ご家族様に訪問していただきやすいグループホームです。当グループホームでは、住まう方の安全と安心を支える環境を第一に考え、穏やかな生活を送って頂きます。忘れる事や出来ない事が増えても、ゆったりと楽しく、ありのまま残された力で自分らしく生活できる様、スタッフが真心をこめてお手伝いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR大阪環状線・近鉄大阪線 鶴橋駅 より徒歩 5分の商業地域に立地している。近隣には、大阪赤十字病院・保育園・コンビニエンスストア・スーパーマーケット・小橋公園等がある。4階建ての建物の1階から3階がグループホームである。事業所内の風呂は車いすの利用者でも入浴が出来るようにミスト浴を設置している。春にはベランダから桜並木が見える。「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念とし、近隣の人とのあいさつを交わしたり、保育児と交流の機会を持つなど地域の人との交流を積極的に取り組む姿勢が伺える。利用者や家族から思いや意向を聴き取り、出来る限り今まで培った生活習慣が続けられるような支援を心掛けている。重度化や終末期の在り方についても利用者や家族、医療従事者を交えて話し合う機会を持ち、利用者や家族の意向に沿った支援の実現に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳のある生活「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念としている。その人らしい生活、暮らしを支える意味をよく話し合い、現場で生かされるように取り組んでいる。	入社時に理念についての研修を行っている。「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念とし、職員は近隣の人とのあいさつを交わしたり、保育児と交流の機会を持つなど地域に密着した支援が実現できるように取り組んでいる。「外部研修に参加する前に理念を深める機会を設けている」。理念は玄関や各フロアに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	隣の幼稚園と交流を持てるよう働きかけている。運営推進会議にも参加してもらっている。	利用者は地域の夏祭りやふれあい喫茶に参加している。近隣の保育園と関わりを持っていて、定期的な交流も持てるように働きかけている。利用者や職員は、買い物や散歩時に地域の人と積極的に挨拶を交わしている。	町会等への加入や地域に事業所の存在を広め、地域の方を招くことが出来るような取組を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、そういった取り組みがないので、今後は例えば、散歩中に地域の子供の見守り隊として見守り役などの事をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	フレンド天王寺と共同で開催している。会議には地域の代表、地域包括支援センターの代表、隣の幼稚園、民生委員、入居者及び家族の代表を外部メンバーとして現状報告を行い、意見交換を行っている。	市の許可を得てグループホームフレンド天王寺と合同で、2か月に1回開催している。地域包括支援センター職員・民生委員・保育園長・利用者が参加し、利用報告や行事報告、地域の関わりなどについて積極的に意見交換している。家族等が参加できるように面会時などに呼び掛けを行っている。議事録は回覧し、職員間で情報共有している。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>行き来する事はほとんど無いが、電話でのやり取りでサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、行き来する機会を作り、市町村との繋がりを密にし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>	<p>区役所職員に業務上の手続きや事業所の情報提供等を行っている。事業所の空き情報や事例相談など、現在は行っておらず、交流の機会が少ない状況である。</p>	<p>市・区役所職員との交流の機会を設け、情報共有や些細なことでも相談できる様な協力関係を築いて頂きたい。</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>どのような状態に置かれている利用者であったとしても、身体拘束をしなくていい方法を考え、その都度スタッフで話し合い検討し実践に努めている。</p>	<p>研修は少人数で実施している。管理者は日々のケアで、職員に個別指導を行い、身体拘束をしないケアの実践に努めているが、玄関・各フロアの出入口は、利用者の安全を確保するため、施錠している。</p>	<p>玄関やフロアの出入口の施錠については、職員間で定期的な話し合いの機会を持ち、施錠しないケアについて検討することが望まれる。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法について学ぶ研修等は、現在行っていないが、入居者の身体の確認、家族と入居者の関係についてタイムリーな把握に努めている。今後、研修等の時間を取り、法について学ぶ機会を作り、取り組んでいきたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>簡単な資料を置いている。学ぶ機会や支援までは行ってない。大切な事なので、勉強会に取り入れ、詳しく学び支援していきたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族に分かりやすく説明し、疑問点についても、契約時だけでなく、その後においても聞いて頂けるよう、柔軟に対応している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情対応職員を設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応が出来るようにしている。意見箱も設置している。</p>	<p>利用者の意向はケアの中で職員が日々聴取し、職員間で共有している。また、家族等からの意見や要望は訪問時に管理者や職員が聴き取っている。毎月送る請求書等と一緒にアンケート用紙を付け、支払い時にアンケート用紙を回収し意見等を聴取している。要望等はケアに関する事が多く、スタッフミーティングで検討し改善している。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>1 /月に管理者会議を実施し、職員より上がった意見をまとめ、運営に生かしている。</p>	<p>管理者は、毎朝のスタッフミーティング時に意見や要望を聴き取っている。また、常日頃からコミュニケーションを図り、相談や意見・要望などが出易い雰囲気を作り個別相談に乗っている。職員が企画した熱帯魚の飼育や手作りおやつなど、提案を取り入れている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>共通した知識をもち、評価をもって向上心が持てる様、働きかけている。職員には定期的に日常の悩みや意見を聞く機会を設けている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な取組み（研修や指導）を行っているが、未だ発展途上などところが多い。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流は無いが、同一法人のグループホームとの交流はある。時間が許せば大阪市のグループホーム連絡会に参加したい。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメントを重要と考え、管理者、営業と2人で面談を行い本人の意向を聞き洩らさず、より良い関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話し合いを持つ場を大切にしている。いつでも相談に対応できるよう心掛けている。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>してほしい事や訴えたいことをいち早く見つける様努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフは入居者は人生の先輩という尊敬の気持ちで接し、その場その場の会話を大切にし、昔に経験されたことや調理の工夫等を学び支え合っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との話し合い、笑い、共に支え合う関係を築いている。そうして行く上で家族からの本音が聞こえる。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の面会に制限せず、友人の方の面会など可能な限り受け入れている。</p>	<p>行きつけの美容院や喫茶店での食事、ふれあい喫茶への参加や家族との外食など、今までの生活習慣を尊重している。また、職員と一緒に手紙や年賀状を書き、それを家族に郵送して貰い、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ぼっちという場所は作らず、仲間がたくさんいるという安心感を持っていたい、入居者同士が関われる場を大切にしている。</p>	
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>関係を断ち切らないよう、どんな時でも相談して頂ける関係を作っている。</p>	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思っていることに希望や意思が困難な場合は、意思が確認出来るように工夫する。本人本位になるよう、前事業所からの情報を大切にしている。	職員は常に利用者と会話し、希望や思いを聴き取っている。意思疎通が難しい利用者は、以前関わりがあった事業所や家族からの情報を受けたり、表情やしぐさなどを介護記録に残し職員間で共有し、意向を汲み取れるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴や暮らし方、生活環境などを家族や知人からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を大切にできるよう把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統合的に把握し、柔軟に対応出来るように努めている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用している。作成については、ケアマネだけでなく、スタッフも交えチーム作成している。スタッフが気づいた事を介護計画に反映するようにしている。変化にその都度対応して行く為、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。その際は関係者にも意見を聞き新たな計画作成を行っている。	利用者や家族等の意向や思いを聴き取り、生活習慣を反映した個別的な介護計画を作成している。3ヵ月ごとのモニタリングやサービス担当者会議は、家族の面会時に合わせ実施している。状態の変化等があれば、随時介護計画を見直している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の記録を取り、水分、排泄、食事摂取量などを記載し、スタッフが情報を共有し、申し送りにも役立って、実践や介護経過に役立てている。	

28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>不穏時や必要時に応じて、デイサービスの空間、物品を利用した支援を行っている。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在は町会長との支援だけなので、今後は積極的に支援して行きたい。消防との連携によって、防火知識についての勉強会を予定している。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>6月より、施設医が交代し、新たな医療の提供、かかりつけ医の受診により、グループホームの協力医のもと連携した対応をしている。</p>	<p>連携医療機関で、全員が往診を受けられる体制をとっているため、ほとんどの利用者が往診医師をかかりつけ医としている。往診時の受診結果は介護記録に記載し、緊急性のあるときは家族に電話で報告している。入所前からのかかりつけ医への受診希望があれば、基本的に家族の付き添いで受診ができるように支援している。受診結果は家族から聴き取り、特別な対応が必要な場合は指示ノートに記入し全職員で共有している。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に1度、看護師による訪問看護が行われている。利用者の状態の維持や、症状の変化、早期発見に努めている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の情報交換を密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して取り組んでいる。</p>		

33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向をもとに、家族の意向なども聞き入れ、医療機関と連携し、全員で方針を共有している。	入所時に「重度化及び看取り介護に関する指針」を提示し、同意書を交わしている。重度化した場合は、かかりつけ医と連携し、指針に添って事業所ができることを家族に伝えている。かかりつけ医の判断で看取りが必要な状態になった時は、医師、家族の立会いのもと、事業所でできる具体的な看取り介護の内容を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別対応マニュアルで対応を行うようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。	消防署立会いのもと、施設内避難経路の確認と、防火訓練を行っている。8月に徒歩2～3分の「グループホームフレンド天王寺」と合同で、実際の火災を想定した避難訓練を行う計画をしている。緊急連絡網を作成し、職員間で確認し合っている。各フロアーに備蓄倉庫があり、現在水、米、オムツを保管している。現在保管量は少ないため、今後随時備蓄品を増やす準備をしている。	夜間を想定した避難訓練を含む、年2回の実施が望まれる。災害時に必要な食糧その他必需品を確認し、利用者の人数分を確保していくこと、また、近隣との協力体制がとれるよう、運営推進会議等を利用して、積極的に地域と関係構築を築ける活動に取り組むことを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者に尊敬を込めた言葉使いで接しており、外来者への対応及び、記録類の保管取り扱い等、個人情報保護を心がけている。	利用者の尊厳や接遇に関して、管理者が随時内部研修を行っている。利用者に対するコミュニケーション技術の向上を図るため、気になる場面があればその都度指導を行っている。また、定期的に介護技術指導や勉強会を開催し、個々の技術の向上に取り組んでいる。個別ファイルは、各フロアーの鍵付き書庫に保管している。	
----	----	---	--	---	--

37	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>支援内容についても、分かりやすく説明をし、同意を得ている。認知症の方でも自己決定が出来るように情報を収集している。</p>		
38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調・精神面を把握し、その時々の方の意向を尊重し、支援している。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗面所を設け、鏡をみる事で、身だしなみを心掛けてもらえるように努めている。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日のメニューを食堂に掲示し、話題の一つとしている。準備や片付けはスタッフ、もしくは利用者様と一緒にしている。準備や片付けをする事で、日常生活により近くなるので、出来る範囲で一緒にやっていきたい。</p>	<p>外部の調理済みの配食サービスを利用して、事業所で温めた料理を配膳している。準備や後片付けは、利用者が出発を手伝っている。利用者の何気ない会話の中から希望を聞き取り、手作りのメニューに変更することもある。ふれあい喫茶や行きつけの喫茶店で外食を楽しむ機会を作っている。家族の希望があれば一緒に外食できるように支援している。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通して把握している。</p>		

42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔内の清潔の保持を日常的に支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>声かけや、誘導により排泄の失敗やオムツの使用を減らせるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を利用して、個々の排泄パターンを把握している。排泄が自立している利用者には、排泄のタイミングをみて声かけしている。基本的に日中は3時間おき、夜間は4時間おきにトイレ誘導を行っている。オムツを使っている利用者も、トイレに座る習慣作りを心掛けている。寝たきりの利用者にもトイレに座る支援を行うことで、自然な排泄を促している。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>入居者の排泄の状態を把握するため、排泄チェック表に記録している。また、必要に応じて家族や医療機関への報告を行い、指示に従い水分補給等の対応を行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるように支援している。</p>	<p>曜日は固定せず、午前中に入れるよう支援している。入浴拒否が強い場合でも、タイミングや声かけを工夫し、週に2～3回は入浴ができるように配慮している。浴槽は個浴で、ミスト浴も設置し、浴槽での入浴が困難な利用者も足浴とミスト浴で入浴を楽しめる工夫をしている。希望があれば同性介助の対応はしている。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日のリズム作りを通した安眠薬をとっている。</p>	

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人ひとりが医師の指示通り服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。（洗濯たたみ、食器洗い、モップがけ、新聞取り、）</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの公園や神社等に出かけ、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーなどにもでかけてる。</p>	<p>朝食の買い出しに職員と一緒に掛けている。ふれあい喫茶開催日や、近隣公園へも2~3日に1回散歩に行く機会を作り、出来るだけ外に出る支援を行っている。外出が困難な利用者にはベランダを開放し、外の街路樹や草花を鑑賞し、季節を感じられる環境を作っている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な買い物の代行や同行で、実際にお金を使う事の提供を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆や、ポストへの投函を行い、友人への電話を繋いだりと支援している。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごせるように、採光や騒音に配慮し、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。</p>	<p>壁の掲示物は、利用者と一緒に行った作品や行事の写真を季節ごとに貼り替えている。すぐ側を走る電車の音や隣の保育園の音や声は、窓を閉めて防音できる環境になっている。子どもの声を聴きたい利用者には、窓を少し開放し、希望の場所で過ごせるよう支援している。温度は一定に保ち、窓はブラインドで光の調節をしている。熱帯魚の観賞やカラオケを楽しめる設備もある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>クッションやテーブルを置き、好きな場所で過ごせるように配慮している。小さな植物や熱帯魚を置き、気分転換しながら心地よく過ごせるように心がけている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り、居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれて安心して過ごせるよう心掛けている。</p>	<p>カーテン、ベッド、クローゼットは設置している。タンス、テーブル、椅子等、本人が使い慣れたものを自由に持ち込んでいる。家族の写真や人形、仏壇を置いている利用者もいる。リネン類は週1回交換し、安全性や衛生面に配慮しながら個々の希望に添った環境作りを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、滑り止めや要所への手すりの設置、福祉用具の利用により、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。各居室の入り口に表札をあげ、自分の居室がわかりやすいように工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聞いており信頼関係がで きている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない